

「知・徳・体」を総合的に兼ね備えた、 社会を創造する能力を育てる「人間形成」



今年度も県南教育事務所では、県教育委員会の経営計画に基づき、「人材育成」「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」「共に学び、共に育つ教育（特別支援教育）」を重点として、事業に取り組んで参ります。今号では、この5つの重点の指標について紹介します。

今年度の5つの重点に関わる指標について

岩手で、世界で活躍する人材の育成に関わって

＜目標＞「いわての復興教育」及びキャリア教育等の推進により、社会の変化に対応し、岩手の産業や地域を支える人材や、世界で活躍する人材を育成する。

	小学校			中学校		
	H30値	R1値	R2目標値	H30値	R1値	R2目標値
将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合 (肯定回答) (小6・中3) 【全国学調児童生徒質問紙より】	85.4%	83.7%	86.7%	73.5%	71.6%	74.0%
自分の住む地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合 (肯定回答) 【全国学調児童生徒質問紙より】	51.9%	62.4%	63.4%	47.6%	50.8%	51.0%

「確かな学力」の育成に関わって

＜目標＞各学校において「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善が行われ、児童生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力等や主体的に学ぶ態度を身に付ける。

	小学校			中学校		
	R1値			R2目標値		
授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合(積極的肯定回答) 【県学調児童生徒質問紙より】	35.0%			37.0%		
学校の授業がよくわかる児童生徒の割合 (積極的肯定回答) 【県学調児童生徒質問紙より】	H29値	H30値	R1値	H29値	H30値	R1値
	50.1%	48.8%	48.0%	32.2%	34.0%	33.6%
	H29~R1の平均値 49.0%			H29~R1の平均値 33.3%		

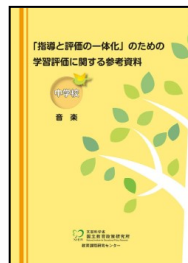
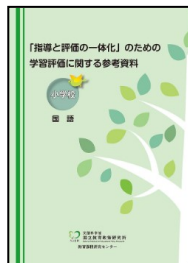


各教科等の指導に当たっては、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性をもった形で学習評価の充実を図る「指導と評価の一体化」が重視されています。
新学習指導要領の趣旨や内容に基づいた授業を実践し、指導と評価の一体化を図りながら授業の質の向上を図ることが大切です。

学習評価の充実のための関連資料

＜参考資料＞ 文部科学省国立教育政策研究所研究開発センター
「学習評価の在り方ハンドブック(小・中学校編)」

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
(小学校・中学校)



「豊かな心」の育成に関わって

<目標> 生徒指導や道徳教育等の充実により、児童生徒一人一人の豊かな情操や自己肯定感の育成及び良好な人間関係を構築できる協調性を育成する。

	小学校				中学校			
	H29 値	H30 値	R1 値	R2 目標値	H29 値	H30 値	R1 値	R2 目標値
人が困っているときは、進んで助けよう と思う児童生徒の割合（積極的肯定回答） 【県学調児童生徒質問紙より】	64.2%	61.9%	65.4%	67.0%	60.4%	65.8%	65.8%	69.3%
	H29～R1 の平均値 63.8%				H29～R1 の平均値 64.9%			
いじめはいけないと思う児童生徒の割合 （積極的肯定回答） 【全国学調児童生徒質問紙より】	86.2%	87.8%	85.3%	91.8%	82.2%	81.5%	85.1%	88.4%
	H29～R1 の平均値 86.4%				H29～R1 の平均値 83.2%			
新規不登校児童生徒発生率 （不登校児童生徒の発生率） 【不登校の状況調査より】	0.15% (0.29%)	0.26% (0.43%)	0.36% (0.58%)	0.33% (0.55%)	0.83% (2.24%)	1.09% (2.86%)	1.18% (2.93%)	1.1% (2.85%)



新規不登校児童生徒数は、増加傾向です。特に小学校では新規不登校児童の増加が顕著です。児童生徒が不登校になってからの事後的な取組だけではなく、不登校の未然防止の取組（居場所づくり、絆づくり）を積極的に推進し、魅力ある学校づくりを目指した取組を一層推進していく必要があります。

「健やかな体」の育成に関わって

<目標> 児童生徒が自らの体力や健康に関心をもち、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付けることにより、体力の向上と心身の健康の保持増進を図る。

	小学校（小5）				中学校（中2）				
	H29 値	H30 値	R1 値	R2 目標値	H29 値	H30 値	R1 値	R2 目標値	
運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合 （肯定回答） 【全国体力・運動能力調査より】	91.2%	91.7%	91.9%	93%	86.1%	85.2%	87.1%	89%	
「体力・運動能力調査」の総合評価（5段階：A～E）がA・B・C段階の児童生徒の割合 【全国体力・運動能力調査より】	男子	72.4%	73.4%	74.7%	75.0%	77.8%	75.6%	74.5%	75.0%
	女子	84.5%	79.8%	82.3%	83.0%	90.5%	90.2%	88.1%	89.0%
「定期健康診断」の肥満度が正常の範囲内（-20%～20%）の児童生徒の割合 【定期健康診断より】	男子	80.6%	83.5%	81.2%	85.0%	86.4%	87.8%	86.4%	87.0%
	女子	86.5%	86.0%	86.6%	88.0%	84.6%	87.2%	86.7%	87.0%

「共に学び、共に育つ教育（特別支援教育）」の推進に関わって

<目標> 「共に学び、共に育つ教育」の理念のもと、支援を必要とする児童生徒一人一人に対する教育的ニーズにきめ細かく応える支援体制を整備し、個々のもてる力を伸ばしていく。

	小学校		中学校	
	R1 値	R2 目標値	R1 値	R2 目標値
特別支援教育について理解し、児童の個性に応じた指導上の工夫を行っている学校の割合 【全国学調学校質問紙より】	33.4%	45.9%	33.3%	48.7%

今年度から新たに設定した指標です。通常の学級にも、障がいのある児童生徒のみならず、教育上、特別の支援を必要とする児童生徒が在籍している可能性があることを前提に、全ての教職員が特別支援教育の目的や意義について十分に理解することが不可欠です。実際の指導に当たっては、児童生徒の障害の種類や程度を十分に理解した上で、教員一人一人が指導方法の工夫を行うことが重要です。



【参考となる資料】特別支援教育指導資料No.46『共に学び、共に生きる いわて』

